

1、ブッシュ・ウォーの開始

ブッシュ・ウォーとは1981年から1986年にかけてオボテ政権と、また同政権崩壊後にはオケロ政権と対峙したムセベニ氏率いる National Resistance Army(国民抵抗軍、NRA)/National Resistance Movement(国民抵抗運動、NRM)との内戦を指します。カンパラにほど近いルウェロ地域、「ルウェロ三角地域(the Luwero Triangle)」と呼ばれる地域が最も戦闘が激しかった場所です。ただ戦闘はウガンダ全土で行われていました。ルウェロは本来緑豊かな農村地域です。ムセベニ氏の NRA はこのあたりに本拠をおいてゲリラ戦をしかけたため政権側の軍隊はここに徹底した弾圧を加えます。75万人もの国内避難民が出たとも言われます。内戦の6年間の間ムセベニ氏は、1981年と1985年の2回を除いてこの地にとどまり抵抗を続けました。ムセベニ氏がこのようにジャングルにとどまったため、ブッシュ・ウォーという名がついたと言われます。

戦闘は1981年2月6日に開始されました。

2、内戦の戦況:オボテ政権との戦闘

当初はムセベニ氏率いる軍事組織(NRA)の装備は十分ではありませんでした。小規模な戦闘が続き NRA は政府側の武器庫を襲撃して武器弾薬を奪うといった行為が行われます。この間、1981年6月9日に9名の兵士が殺害されるという事件が起きます。これは政権側にとらわれた兵士が味方の居場所を教えなかったため殺害されたものです。ウガンダでは現在でも6月9日は「英雄の日」として祝日になっています。

内戦の間に現在のウガンダ政治を形作る重要な動きが出てきます。ムセベニ氏の勢力は国民抵抗会議(National Resistance Council: NRC)を組織し自らの正当性を主張し住民を味方につける運動を展開していきました。これが現在も続く与党 NRM の発祥です。NRM のウガンダ全国組織化を通じてウガンダの多くの住民の生活を立て直したのです。

またムセベニ氏はリビアから軍事的な支援を受けることになりました。ムセベニ氏は1981年6月にリビアを訪問しカダフィー大佐と面会します。リビアはアミン政権を一時支援していましたがその後撤退していました。ムセベニ氏と面会したカダフィー大佐は即座に NRA の支援を約束し実行に移したと言われます。現在、カンパラ市内に「カダフィーモスク」と言われる市内を一望できる美しいモスクがあります。もともとイディ・アミンが1970年代に建設を始めたのですが資金不足から建設が中断。その後ムセベニ大統領となった2000年代にカダフィーのリビアが建設を支援、完成されたもの

です。カダフィーが建設を支援したのはこのようにブッシュ・ウオー以来の関係があったからでしょう。

内戦の行方は次第にオボテ政権側の軍隊に不利になっていきました。NRA は以前のルレ大統領の勢力とも合同します。ムセベニ氏の実弟のサリム・サレ将軍は1983年9月にマシンディの軍営を占領することに成功します。1983年12月にはオボテ側の有力な将軍がヘリコプター事故で亡くなりました。さらに1985年には新たにウガンダ西部のルウェンゾリ方面に戦線が開かれます。オボテ政権の軍隊は一部の部族からなる偏った軍隊であり次第に弱体化しました。

これを見て1985年7月バジロ・オケロ将軍率いるグループ(UNLA)はクーデターを起こしました。こうして二度にわたり大統領についてオボテ大統領はザイルに亡命しオボテ政権は崩壊しました。新たに政権を組織したのはバジロ・オケロ将軍とチトー・オケロ将軍でした。(注:この二人は血縁関係はありませんが同じ部族の出身でした。)

3、オケロ政権との対決、ムセベニ大統領の就任:内戦の終結

オボテ大統領がザイルに去ったときムセベニ氏はスウェーデンにいました。すぐに彼はタンザニアに戻ります。実権を握ったオケロ側と調整を試みますが、オケロらは新しい政権を作ってしまう。同時にオケロ政権側は NRA をウガンダ国内で孤立させようと工作しました。

周辺国のケニア、タンザニアは更なる混乱をさけるため仲介を試みましたが事態は収束しませんでした。オケロ政権側は自らの勢力の補強のため国外に逃亡していたアミン政権の兵力をウガンダ国内に呼び戻すこともしました。これは周辺国の不信を呼び起こします。

これらの状況を見て NRA は攻勢に出ます。このときに NRA の指揮を執ったのはムセベニ氏の兄弟であるサリム・サレ将軍です。リビアやタンザニアから支援を受けた NRA はウガンダ全土で有利に戦況を進めました。1985年9月には首都からも遠くないマサカ、ムバララは NRA に包囲されるに至りました。

この間、ムセベニ氏はタンザニアにとどまり旧知のニエレレ大統領の支援を受けます。さらにケニアのモイ大統領が仲介に乗り出しナイロビで今後のウガンダの統治についての交渉が行われました(ナイロビ平和協議)。この頃周辺諸国、特にケニア、タンザニアからムセベニ氏は次のウガンダのリーダーであると認識されるようになります。オケロ政権側も妥協を図るとの動きもありましたが NRA が軍事的に優勢になります。12月に入りマサカのオケロ側の部隊が NRA に降伏しました。翌年1986年にはムバララは平和裏に NRA に占領されました。

1986年1月、NRA はついに首都のカンパラ郊外に展開します。最終的にエンテベの UNLA 部隊が降伏し NRA の兵士がカンパラのラジオ局を占領。1月26日、カンパ

ラでの戦闘も終結しました。これは現在のウガンダ「解放記念日」の祝日であり毎年首都カンパラでは盛大に記念式典が行われます。

ムセベニ氏は1月29日に大統領に就任します。6年の長きに渡り多くの犠牲者を出したブッシュ・ウォーはこうして終了しました。

現在でもウガンダの新聞ではブッシュ・ウォーの経緯を振り返る特集が時々組まれています。戦闘が終わってから20年あまりになり国民、特に若者はこのような経緯を直接体験していません。NRM がどのように形成されたのかなどの詳細が今でも報道されています。

4、2008年まで続いた内戦

1986年に戦闘を終結させたムセベニ大統領は NRM を全国組織とし、また NRA をウガンダの国民軍としました。NRAはその後国民抵抗運動(National Resistance Movement:NRM)と発展しました。国民軍はその名称をウガンダ国民防衛軍(Uganda Peoples Defence Forces:UPDF)に変更しました。ブッシュ・ウォーの犠牲者はアミン時代のそれを上回るともいわれます。長い内戦で疲弊した国土、国民の再建が始まりました。

そのような中でもウガンダ国内の一部には反政府活動を行うものや、テロ活動を行うものがありました。ウガンダ国民救済前線(Uganda National Rescue Front: UNRF)、神の抵抗軍(The Lords Resistance Army: LRA)、連合民主軍(Allied Democratic Forces: ADF)などです。

最終的に UNRF との和平合意が正式になされたのは2002年のことです。ウガンダ北部の西ナイルにあるユンベで合意がなされたのでした。LRAとの和平交渉は 2008年までかかりました。これによりウガンダ国内の戦闘行為は終結し国内の復興と経済発展に専念できる環境がようやく整いました。日本を始め多くの先進諸国がカンパラに大使館を設置したのもこの頃です。

筆者は 2025 年 12 月のこのコラムでウガンダ北部ユンベに出張した時の体験を紹介しました。そのときに地元自治体の人はこの地域ではまさに 2002 年まで戦闘が続いていたことを説明していました。ユンベで執り行われた和平合意の結果、それまで武器を取っていた人はそのような行為をやめ今では JICA(ジャイカ)の道路建設に携わっている人もいるとのことでした。

その後もジョセフ・コニー率いる過激なテロ組織であるADFが活動を行っていました。ADF はウガンダ軍により掃討されましたが、コニーは現在に至るまで逃走を続けています。



[NRM 本部に掲げられた大統領選挙向けの看板]

以上、3月と4月の二か月にわたりムセベニ政権の成り立ちを振り返ってきました。本年1月に大統領・議会選挙が行われたときに一般国民が選挙で暴力行為が行われるのはもう沢山だというインタビューを多く見ました。ムセベニ政権の成立に至る歴史を振り返れば一般国民の願いはまさしく平和な生活が継続されることだと思います。(以上)